

平成21年9月25日

各位

上場会社名 株式会社JCLバイオアッセイ  
 代表者 代表取締役社長 靱山 邦男  
 (コード番号 2190)  
 問合せ先責任者 取締役経営企画室長 田中 雅樹  
 (TEL 06-4863-5020)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年4月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,016	155	125	37	11.36
今回発表予想(B)	780	△131	△153	△142	△43.07
増減額(B-A)	△236	△286	△279	△179	
増減率(%)	△23.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	—	—	—	—	—

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,575	558	454	231	69.93
今回発表予想(B)	2,220	250	145	50	15.17
増減額(B-A)	△355	△308	△308	△181	
増減率(%)	△13.8	△55.3	△68.0	△78.3	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	2,488	502	437	259	100.37

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,016	155	140	52	15.86
今回発表予想(B)	780	△131	△142	△131	△39.74
増減額(B-A)	△236	△286	△283	△183	
増減率(%)	△23.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	—	—	—	—	—

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,575	558	524	301	91.10
今回発表予想(B)	2,220	250	215	120	36.34
増減額(B-A)	△355	△308	△308	△181	
増減率(%)	△13.8	△55.3	△58.9	△60.1	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	2,488	502	444	265	102.99

修正の理由

(1) 第2四半期連結累計期間連結業績予想

当社グループの連結子会社はJCL Bioassay USA, Inc.1社です。当連結子会社は順調に開業準備を進めております。当第2四半期連結累計期間連結業績予想を修正するに至った理由は、以下に記載の第2四半期累計期間個別業績予想の修正理由と同じです。

(2) 通期連結業績予想

(1)に記載のとおり、当社グループの連結子会社はJCL Bioassay USA, Inc.1社です。当連結子会社は順調に開業準備を進めております。

通期連結業績予想を修正するに至った理由は、以下に記載の通期個別業績予想の修正理由と同じです。

(3) 第2四半期累計期間個別業績予想

前期の第4四半期会計期間においては、大手製薬会社の開発方針の転換等の影響から、受注が計画を下回りました

が、今期に入り、販路拡大の一環として新規顧客獲得に注力してまいりました結果、受注は予算及び前年同期を上回る水準で推移しております。しかしながら、これらの試験の終了時期が、想定していたより遅く、第3四半期以降になるものが多くあったことから、売上高は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

また、利益につきましては、前期の第4四半期における受注の鈍化及び今期に受注した試験の終了時期が想定より遅かったこと等から、当第2四半期累計期間における実施試験数が少なく、各試験の費用負担が重くなったため、原価率が高くなりました。この結果、営業利益、経常利益、四半期純利益は当初計画を下回る見込みとなりました。

#### (4) 通期個別業績予想

前期の第4四半期会計期間においては、大手製薬会社の開発方針の転換等の影響から、受注が計画を下回りましたが、今期に入り、販路拡大の一環として新規顧客獲得に注力してまいりました結果、受注は予算及び前年同期を上回る水準で推移しております。しかしながら、これらの試験の終了時期が、想定していたより遅く、次期以降になるものも多くあったこと及び今後受注する試験の終了時期も、次期以降になるものが多くなると想定されることから、売上高は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

また、利益につきましては、前期の第4四半期における受注の鈍化及び今期に受注した試験の終了時期が想定より遅かったこと並びに今後受注する試験の終了時期も当初の計画より遅くなると想定されること等から、通期の実施試験数も想定より少なく、各試験の費用負担が重くなり、原価率が当初の計画より高く推移する見込みであります。今期に入り受注が回復していることで、実施試験数は増加傾向にあり、原価率は改善しつつありますが、当第2四半期累計期間における原価率の悪化を吸収するまでには至らず、営業利益、経常利益、当期純利益は当初計画を下回る見込みとなりました。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上